

平成 31 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	3	講習名	【選択必修】異文化理解と多文化共生：歴史的経緯と現代社会における取り組み				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
富田 和広 鄭 銀志 栗原 武士 植村 広美	広島キャンパス	6 時間	小学校、中学校、 高等学校教諭	30 人	講義・ 討議	筆記	
開催日	8 月 2 8 日（水）		予備日	9 月 4 日（水）			
【到達目標】 国内外における多文化共生の歴史的経緯，浮上する課題や行政による対応策などを具体的な事例に基づいて理解するとともに，今後のわが国における多文化共生社会の実現に向けた取り組みのあり方を導き出す。							
【講習の概要】 グローバル化が進む現代社会において，海外志向型の従来の国際化に加え，日本国内においても外国人労働者をはじめとする様々な文化的背景を持つ人々との協働・共生を促進する内なる国際化が求められている。本講習では国内外における多文化共生の歴史的経緯や先行事例について様々な角度から考察し，教育現場における多文化共生教育に資することを目標とする。							
【講習の内容】 講義 1：現代アメリカにおける多文化共生の取り組み（担当：栗原武士） 様々な移民から構成されるアメリカは，建国の歴史から現代に至るまで，様々な社会的葛藤を経験し，それを乗り越えるための試みを続けてきた。本講習では主に 1960 年代における公民権運動をとりあげ，人種的平等を達成するためのアメリカ多文化主義の成り立ちを歴史的経緯とともに振り返る。							
講義 2：韓国における多文化共生社会のあゆみと現状（担当：鄭 銀志） 1980 年代まで韓国に在留する外国人数は全人口の 0.1%に過ぎなかったが，韓国政府の多文化時代の宣言（1996）をきっかけに急速に増加し，現在は 171 万人を超えている。本講義では韓国における多文化共生の歴史的経緯を踏まえた上で，韓国政府の多文化政策とその事例（「虹の橋」事業，多文化 2 世の兵役義務など）を取り上げ，韓国社会を取り巻く多文化共生の現状と課題について考えていきたい。							
講義 3：外国人の子どもの教育から考える多文化共生（担当：植村 広美） 近年，わが国においても多くの外国人を受け入れるようになったが，それに伴い文化的・社会的背景を異にする外国人の子どもたちにいかにして適切な教育を保障するかという課題が浮上している。そこで，これまでのわが国における外国人の子どもの教育政策の変遷を踏まえ，子どもたちの実態に鑑みた今後の教育政策のあり方について考察を行う。							
講義 4：参加型で学ぶ多文化共生教育（担当：富田 和広） 多文化共生教育の参加型教材の紹介・整理・体験を通して，多文化共生をどのように教育現場に導入していくかを考える。							
【備考】							